

ボール遊びができない公園から考える「ルールの意味と価値」

先日、学校近くの児童公園でボール遊びをしている子たちがいて、そのボールが同じ公園で遊んでいる別のグループの子に当たることがありました。その翌日、ボール遊びをしていた子どもたちには学校で注意・指導をしたのですが、職員で以下の内容を確認・共有し注意・指導を行いました。

公園は、そこで遊ぶ
① すべての人が安全で ② すべての人が安心して ③すべての人が楽しく
過ごすことができる場所である。そのためにルールが存在し、ルールを守る必要がある。

補足説明

「ボール遊びができない公園なんて・・・」と感じる人もいます。しかしながら、広くない公園では、ボール遊びをすると「多くの場所を占有してしまう」「ボールが当たる危険性がある」などの理由から、ボール遊びができないルールになっているのでしょう。

ここで「そんな理想だよ」と批判を受ける覚悟の上で、難しいけど目指したい、理想的な考え方を紹介します。「自分たちだけ楽しんで、他の人の安全や安心を犠牲にしてしまうことよりも、公園にいるみんなの『安全、安心、楽しい』のため、ルールを守って自分たちは楽しめ、他のグループの人に迷惑をかけない遊びをしよう。」と考えてみてはいかがでしょうか。

「ボール遊びができない公園なんて・・・」と考えれば、腹が立つし、つまらない気分になってしまいます。それに対して上記のように考えれば、気分を変えて前向きにルールを守ろうという気持ちになります。「人」「環境」「過去」は変えることはできないが、「自分の考え」と「行動」そして「未来」は変えることはできます。

このように考えることは「合意形成能力」を育む素地となります。子どもたちが成長し大人になり、社会人として生きていく過程で、多様な価値観・考え方の人や、育ちも文化的背景(外国人も含む)が異なる人と共に過ごしていくことになります。その時に、自分の価値観や考え方を相手に押しつけたり、相手を説得したりするだけでは、相手と良好な人間関係をつくることはできません。また、自分の心・機嫌は自分で良くするものです。他の人の言動や変えようもない環境に影響を受けて不機嫌になるのはもったいないです。自分の考え方は自分でコントロールできるし、自分の機嫌は自分でコントロールできるものです。だからこそ、大切にして欲しいのは、4月の学校だよりと始業式・新入生を迎える会でお知らせした、あの言葉です。

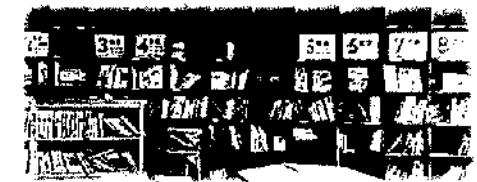
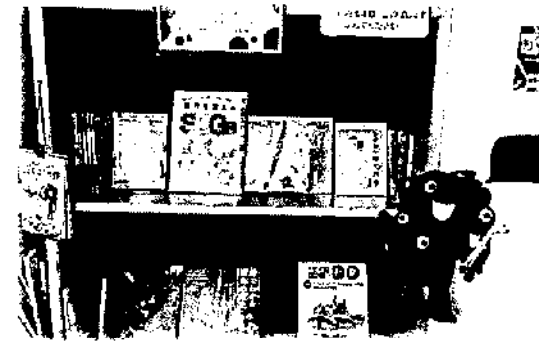
目(め) は、人の良いところを見るために使おう。
耳(みみ) は、人の言葉を最後まで聴いてあげるために使おう。
手足(てあし) は、人を助けるために使おう。
心(こころ) は、人の痛みがわかるために使おう。
口(くち) は、人を励まし言葉や感謝の言葉言うために使おう。



みんな～
大好き～

校内の様子を写真でお知らせします。

図書室や図書コーナーが充実しています



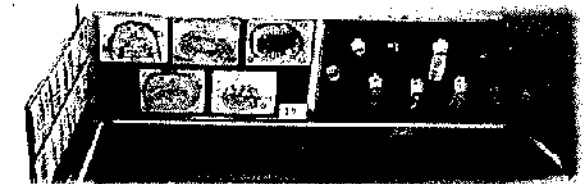
司書の先生が図書室の整理をしてくれました。

「本はともだち」とあるように、みなさんには、本に親しんでほしいです。
廊下にも図書コーナーをつくってくれました。(今回は万博の特集です)

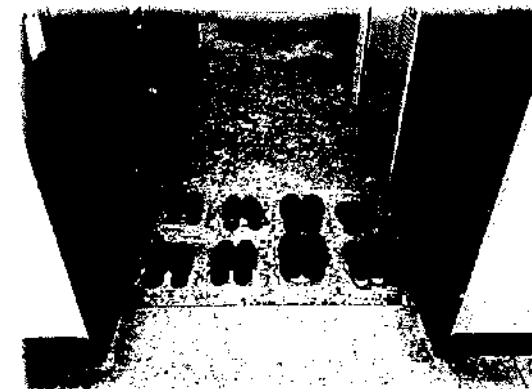
「福島の森」で植物を栽培しています。



階段ではみんなの作品が飾られています



トイレのスリッパがきれいにそろっています



5月19日(月)の放課後、校長の私が校舎内を巡回していました。3階のトイレの前に差し掛かったところ、ある一人の男子児童がたった一人誰にも見られていないわけでもないのに、床にしゃがみ込んでトイレのスリッパをそろえていました。誰も見ていなくても自主的にこのような素晴らしい行いをしているところが本当に素晴らしい。
「手足は人を助けるために使おう」を体現した行いです。素晴らしいです。